

豊かな自然と伝承芸能がいきづくまち

鷹巣公民館

1 鷹巣地区の概要

鷹巣地区は、福井市中心部から約25km西方に位置している。砂浜2kmと七浦5kmの海岸段丘が続き、岩礁が散在する海岸は四季折々の景観を楽しむことができる。東西7.5km、南北5km、面積19.33km²で、地区の約87%が山地となっている。地区で最も高い高須山は標高が438mあり山頂には鷹巣山城址がある。山頂からの眺望はすばらしく、地元の方によって登山道が整備され多くの人々に親しまれている。また、沿岸部一帯は越前加賀国定公園に指定されており、北陸で有数の広さと透明度を誇る鷹巣海水浴場がある。

免鳥地系の古墳群には県内で最大級の免鳥長山古墳(3方向にテラス状の造り出しを持つ帆立貝式古墳・全長90m)があり、平成19年から国指定史跡として保存・管理されている。また、地区内には、国の重要無形民俗文化財に指定されている糸崎寺の仏舞(ほとけまい)、市の無形民俗文化財に指定されている免鳥夜網節(よあみぶし)、「ふくいのおいしい水」に認定された湧水が出る水分(すいぶん)神社の奉納相撲、蓑浦太鼓など、多くの伝承芸能がある。

昭和55年4月に竣工した公民館は、老朽化により平成30年5月に移転新築が行われ、地区民の新たな憩いの場、地域活動の拠点となっている。

2 地域で育み、地域を愛する子どもたち

(1) ボランティアで海鮮鍋をGet!

家庭教育事業の一つとして平成14年度から継続して行っている。例年10月の土曜日に、地元の中学生たちが地区内の施設やお店などに出向き、ボランティア活動を行う。内容は、漁港でのごみ拾い、温泉の風呂場や店内掃除、醤油屋さんのビン洗い、老人施設での清掃やお年寄りの話し相手、自動車工場の洗車、サツマイモ掘りなど様々である。作業が終わると各施設の方から活動のお礼にと、鍋の材料となる魚介類や野菜、味噌や醤油などをいただき、それらを公民館に持ち帰り、みんなで大釜の海鮮鍋を作る。そして、日頃お世話になっている地域コーディネーターや老人クラブの

方々などを招いて会食し、交流を深めている。昨年からは生徒たちが自ら実行委員会を立ち上げて企画や当日の進行、会場準備なども行うようになった。

これらの活動を通して、中学生たちが働くことの大切さや食の有り難さを実感し、地域への愛着を深めてくれることを願っている。



(2) 鷹巣夏休み子どもクラブ

子どもたちの自主性・社会性、異年齢での思いやりや連帯感を育むことを目的として、『夏休み子どもクラブ』を公民館と地区のボランティアの共催で始めた事業である。

夏休み期間中の水・木曜日に計7~8回開催し、地元の園児・小学生、約20~30名の参加がある。朝の会→学習タイム→体験教室→昼食という1日の流れで、6年生がリーダーとなって縦割り活動を行う。

体験教室では、地区のボランティアや保護者が協力して指導にあたり、料理教室、防災教室、読み聞かせ、たかすカルタ大会、オセロ大会など様々な活動を行い、世代間の交流の場としても地域に根付いている。



(3) 鷹巣地区PTCAの取組

PTCAとは、PTAに地域住民(Community)が加わった「親と教師と地区住民の会」を意味し、家庭・学校・地域が連携して子どもたちを育てていこうという「共育」

の理念が込められている。

平成21年度に発足して以来、それまで地区の各団体が行っていた子どもへの教育支援事業を組織化し、情報や目的を共有して連携が図られるようになった。

事業はPTAの活動が中心で、全体会や運営委員会を開催して内容や日程調整などを行いながら進めている。

また、学校や公民館には、PTCAの指針となる「たかすっ子育ち3か条」が掲げられ、子どもや地域住民の意識高揚を図っている。

① たすけ合い いつでも声を掛け合います

② かんしゃの心で「ありがとう」を言います

③ すすんで地域の行事に参加します

3 守り伝える伝承芸能と広がる地域交流の輪

(1) 秋の文化祭 ～ 伝承芸能発表の場 ～

地区には多くの伝承芸能があり、地元の人や保存会によって守り伝えられているが、地区夏まつりや秋の文化祭は、それらを発表する場としても大切な行事となっている。

秋の文化祭は毎年11月初めに開催され、模擬店や作品展示などの他、いろいろな芸能の発表が行われる。免鳥夜網節をベースに編曲した中学生によるヨサコイイッチョライ、正調夜網節の唄と踊り、菘浦太鼓、小学生全員による合唱など、地区の人々が一体となって大いに盛り上がる1日である。



(2) ひまわり Cafe ～ 地区民交流のサロン ～

少子高齢化が進む中、気軽に集まって交流できる場が欲しいという地区民の思いに応じて、平成26年に公民館の講座の一つとしてスタートした。

毎月第2金曜日の午後に開催し、地区に住んでいる人なら誰でも気軽に参加することができ、いろいろな体験活動を通して交流を深めている。現在は高齢者を中心に20名ほどが集まり、健康体操、小物作り、お菓子作り、幼稚園児との交流、館外研修など、様々な活動を楽しんでいる。



4 終わりに

近年、少子高齢化が加速度的に進行する中であって、青少年・子育て世代の減少と老人世帯の増加が顕著になってきている。併せて、かつて形成されていた人間関係が希薄化し、地域活動への関心がややもすると薄くなる傾向にある。

このような中、従来にも増して住みよい豊かな地域にするために地域の課題をより鮮明にとらえ、お互いに力を合わせて事業を推し進める土壌づくりが大切である。

そのために、鷹巣地区未来ビジョン委員会を発足し、住民の望むことや地域の優れた自然景観と豊かな歴史、文化遺産を受け継ぎ、さらに次世代に伝えていくために、10年後、20年後の将来ビジョンを策定し、今後とも、豊かで住みたくなるふるさとづくりをみなさんと共に目指していきたい。

